

-【東海アワード2017 エントリー用紙】

事業名称	2016年度青少年育成事業「ワンパク広場2017」		
カテゴリー (どちらか1つに○)	<input type="checkbox"/> 織田信長アワード…斬新的な企画 <input checked="" type="checkbox"/> 徳川家康アワード…持続性のある事業		
申請LOM	三重ブロック 一般社団法人名張青年会議所		
LOM認証番号	234	LOMの人数 (2017年1月1日時点)	21名
理事長名	堀内 修司		
事務局住所	518-0729 三重県名張市南町 822-2-4F		
事務局TEL/FAX	TEL:0595-63-1616/FAX:0595-63-1539		
担当者	氏名:新谷 剛士 携帯電話番号:090-5677-7255 E-Mail:takeshintan@gmail.com		
本事業の参加者	参加メンバー	13名	
	協力団体・企業などの関係者数	24名	
	一般参加者数	68名	
事業実施に至る背景 (400文字程度)	住宅地の開発による身近で遊べる自然が減少する中、ゲームやインターネットの発達により、屋外でのコミュニケーションから屋内でのコミュニケーションが中心になってきています。しかし、人間が生きるうえでは生身で触れたり、友人たちと力をあわせて様々なことに挑戦したりする好奇心や自主性が必要であると考え、事業を立案致しました。		
事業目的 (400文字程度)	【対外】 初めての経験でも知恵を絞り、協力しあい乗り越える大切さを学びます。 【対内】 子どもたちのサポートをし、臨機応変に的確な指示を出す能力を身に着けます。		
事業概要 (400文字程度)	「未知への挑戦」をテーマに各種イベントを開催する。 ①イゲハラクエスト～力を合わせて魔王を倒そう～(メインイベント) 曾爾少年自然の家にあるオリエンテーリングのチェックポイントを利用してオリジナルのオリエンテーリングの実施を行う。チェックポイントの通過数によってレベルアップ(経験値取得)とし、レベルによってイベントの難易度を変える(レベルが高いほど難易度は優しくなる)ことで、チェックポイントを探して大自然をめぐるようになる。最低レベルで早くクリアするか、先にレベルリングをして簡単にクリアするかは、各チームで相談して独自の判断で進行する。途中で違うチームとの出会い、情報交換したり励まし合ったりするシーンも期待できます。また、ラストではボスを子どもたちで協力して倒す(柔道経験者と本気の綱引き)でゲームクリア。 ②冒険者たちの食事(野外炊飯) チキンカレーを野外炊飯にて調理します。ジュニアリーダーやJCメンバーがサポートしますが、薪割りから食材準備まで子どもたち中心に実施。個人プレイより協力プレイ主体の内容。 ③最後の挑戦(フィールドアスレチック) 日常では経験することのない斜面や高所を等、困難な場所でもどのようにすればクリアできるか友人同士助け合い乗り越える。協力が必要なものから、個人で行うものまで13のアスレチックが備わっており、直射日光の当たらない森の中で		

	のフィールドアスレチックは子どもたちにとって自然に触れながら体を使う良い経験となる。	
	事業対象者	メンバー、キッズサポーター、市内小学4～6年生
	事業区分	継続事業(8回目)
	公益性の有無	有
事業決算総額	決算計	325,908円(登録料収入含む総額)
開催日(期間)	2016年8月7日(日)～2016年8月8日(月)	
開催場所	国立曾爾少年自然の家	
協力団体	共催	名張市青少年育成市民会議・名張キッズサポータークラブ
	協賛	名張Fバス
	後援	名張市教育委員会
	その他	
事業目的に達した点 (400文字程度)	<p>【対外】</p> <p>オリエンテーリングにおいてはクイズやタイヤ引きなど一人の力ではクリアのできないイベントも知恵を出して協力しあう光景があった。グループによってクリアしたイベントの数は違ったが、全グループがクリアできた。2日目に行われたフィールドアスレチックも全てのグループが協力しあいクリアすることができた。</p> <p>【対内】</p> <p>子どもたちに問題が起こった際や事業の実施においても、グループLINE等で情報共有し、迅速な指示を出し対応することができた。</p>	
事業継続性の有無と期間	<p>2010年より8回目を迎える一泊二日のキャンプ事業である。</p> <p>本事業は小学4～6年生を対象とし、中学生以上で構成されるキッズサポータークラブ(小学生以下対象のイベント等において無償でゲームや引率等を行う、青少年育成市民会議が母体の集団)の協力の基で開催しているが、事業に参加した後(小学校卒業後)にキッズサポータークラブに入る参加者も多く、JCが開催してまちづくりへ寄与するという点においても大きな成果を上げていると考えている。</p>	
アピールポイント (400文字程度)	<p>①毎年趣向を凝らしたメインイベントを企画し、子どもたちが楽しみにしてくれている。</p> <p>2010年「kokoroの寺子屋」</p> <p>2011年「親子の手紙」</p> <p>2012年「勾玉を作ろう」</p> <p>2013年「火おこし体験」</p> <p>2014年「未来への手紙」</p> <p>2015年「UN MDGs認知向上プログラム開催」</p> <p>2016年「イゲハラクエスト」</p> <p>2017年「怪人20面相からの挑戦状」</p> <p>②前述の通り、参加した子どもたちがまちづくりの一助となるキッズサポータークラブへ入会することが多い。</p> <p>③継続事業であるため認知度も高く、国内外からの帰省にあわせて参加する子どもたちもいるほどである。</p>	





※募集スケジュール 2017年5月25日(木)～6月12日(月)まで

※申込みメールアドレス award2017entry@yahoo.co.jp (小幹事 河村忠伸)